1923 年の被害者名簿について

小笠原　強（専修大学兼任講師）

（2019 年 9 月 8 日）

1　はじめに

台湾の中央研究院近代史研究所に、『日本震災惨殺華僑案』という史料が所蔵されています。この『日本震災惨殺華僑案』（以下、『惨殺華僑案』）とは、中華民国北京政府（以下、北京政府）が関東大震災下での中国人虐殺事件を調査、記録した外交文書です。現在、『惨殺華僑案』の複写資料が横浜開港資料館でも公開されており、誰でも閲覧可能となっています。

この『惨殺華僑案』は本編 6 冊と付録 2 冊の計 8 冊から構成されています。外交文書という性格上、事件をめぐる日中両政府の動向を知ることができると同時に、東京での大島町事件（1923 年 9 月 3 日）や王希天事件（9 月 12 日）、神奈川での事件（9 月 2～4 日）などに直面した被害者の様子や心情がつぶさに記されている貴重な史料となっています。

これまで『惨殺華僑案』は先行研究において、部分的に引用されてきましたが、史料に関する具体的な検討は行われていません。本史料が事件の真相究明に役立つのではないかと考え、報告者（小笠原）は 2013 年から有志の方々と史料の分析を行ない、現在も訳注作業を進めています。

この『惨殺華僑案』の大きな特徴は、事件の被害者名簿が所収されていることです。その名簿には、どこで、どのような被害に遭ったのか、被害者一人一人の情報が記載されています。この点は震災下で犠牲となった朝鮮人の場合と大きく異なります。

被害者名簿の存在については、中国人虐殺研究の第一人者である仁木ふみ子さんが著書で言及済みであり、仁木さんが編集された史料集にも名簿が掲載されています。しかし、掲載された名簿の校訂がなされないまま掲載されている部分もあり、更なる検討が求められています。この点については後述します。

現在、報告者は訳注作業と同時に、被害者名簿の分析も進めています。分析はまだ開始されたばかりではありますが、本報告では『惨殺華僑案』にどのような名簿が存在しているのか、またそこからわかることや問題点について、紹介させていただきます。

本報告では参考資料として、訳注作業の成果として本年内に発表を予定している名簿の一部を配布いたしますので、ご参照ください。

2　『日本震災惨殺華僑案』所収の被害者名簿

全 8 冊からなる『惨殺華僑案』には、22 の被害者名簿（北京政府外交部に提出された名簿 14、外交部が作成したと思われる名簿 8）が所収されています（【資料 1】参照）。これらの名簿は 1923 年 10 月末から 1924 年 5 月に作成されています。No.15～22 の外交部が作成したと思われる名簿については、現段階では作成時期はわかっていません。

名簿の作成者は中華民国駐日横浜領事館、温州旅滬同郷会、吉林省交渉員、浙江省交渉員、駐温州交渉員、王正廷訪日調査団と多岐に亘っています。すべての名簿が同一のデータで統一されているわけでは

なく、各作成者による調査に基づいて作成されているため、名簿のデータにはばらつきが存在しています。

先述したように、名簿の分析は開始されたばかりであり、【資料 1】で紹介したすべての名簿を追う段階には至っておりません。そのため、本報告では、現在分析を進めている王正廷訪日調査団による被害者名簿（【資料 2】）を中心に紹介します。

この王正廷訪日調査団とは、1923 年 12 月に北京政府が事件の詳細を調査するために、日本へ派遣した王正廷を中心とする調査団のことです。王正廷は帰国後、1924 年 1 月 31 日に被害者名簿を含んだ調査報告書を提出しています。以下、【資料 2】を用いながら紹介します。

【資料 2】は王正廷訪日調査団がまとめた報告書に所収されている「中華民国留日人民被害調査表」の一部で、今回は犠牲となった 30 名分のデータを参考までに挙げております。

名簿によって若干のばらつきはありますが、基本的に被害者の姓名、年齢、本籍、職業、震災以前の住所、被害の日時・場所・状況（身体／金銭）、加害者情報、備考の項目から構成されています。被害者の名前や出身だけではなく、どこで、いつ、どのように被害に遭ったのか、また加害者はどのような人で、その被害者の事件を誰が証言・報告しているのかなどが記載されています。

【資料 2】にある人々の出身地は浙江省永嘉県、青田県、広東省香山県で、職業は労働者（資料中では「工」と表記）や商人、医者、店員、飲食業でした。30 名中 17 名が大島町、他 12 名が神奈川県在住（横浜 9 名・足柄下郡 3 名）、不明 1 名となっており、神奈川の 6 名以外は居住地付近で事件に遭っています。神奈川の居住地付近以外の 3 名は「吉浜城堀」とありますが、これは現在の湯河原町にある地名であり、熱海線の鉄道工事に従事していた人々でした。他 3 名は横浜港周辺や横浜市内の箕輪で被害に遭っています。

事件の発生日時は 9 月 2 日から 4 日にかけてであり、横浜では 9 月 2、3 日、大島町は 3 日、吉浜城堀では 4 日とあります。先述の大島町事件は 9 月 3 日に発生しており、この名簿内にある大島町在住の人々は大島町事件の被害者であると推測されます。また、横浜や城堀での事件についても他の史料から確認することができます。

次に加害者と被害状況については記載のされ方に違いはあるものの、加害者としては「自警団・軍警」、「日本人労働者」が挙げられています。それらの加害者に撲殺、海に投げ込まれて殺害などと被害状況の項目には記されています。

最後の項目として備考欄がありますが、その人の被害に関する情報源が記載されています。例えば No.001 の潘林銓さんについては、潘乾隆さんが事件について証言しており、また金寶山さんが事件について報告しているという解釈となります。備考欄をみていくと、被災者代表によるものと思われる「災民代表報告」、横浜総領事館や神戸領事館による報告などが記されています。表中の No.019 に目撃者として挙がっている「竹内四郎」については、「木戸四郎」が正確で、木戸による目撃証言は他の史料からも確認できます。今回は一部のみの紹介となりましたが、名簿からも事件の様子がわかるのではないかと思います。

事件に関するさまざまな情報を含んだ被害者名簿ではありますが、今後検討すべき問題点があります。

先述したとおり、被害者名簿は今回紹介した名簿以外にも多く存在しています。データも統一されているわけではなく、例えば、同一人物の情報が一つの名簿では A と記されていても、もう一方の名簿では B と記されているケースが多々存在しています。どちらが正しいデータなのか判断するためには、い

くつかの名簿や他の資料との照合が求められます。

また、備考欄にあった情報源の確認も必要と考えます。今回紹介した名簿の No.001～007 まである「金寶山報告」については他の資料から裏付けが可能となっていますが、No.020～026 の「神戸領事館報告」については該当する資料は現在確認されていません。名簿資料の正確性を示すためにも、他の名簿や資料との照合、情報源の確認などの作業は必要不可欠と考えています。

3　おわりに

関東大震災での中国人虐殺事件における被害者名簿の存在は、事件の証拠を示す非常に大きな意味合いを持つものです。その一方で、先述の問題点より、現在確認できる名簿を鵜呑みにするのも危険であると感じています。名簿を含んだ資料は一般公開されており、比較的手に取りやすい環境にありますが、取り扱いは慎重にすべきものと考えます。

今回紹介した名簿について、今後 2 回に分けて成果を発表する予定です。まずは今回紹介した原資料に沿った名簿を（本年中の予定）、次に他の資料や名簿などと照合して記載事項の正確性を上げた名簿を発表する予定（来年以降）です。

事件から今年で 96 年となります。一刻も早い真相究明が求められますが、史実の解明には丁寧に作業を進めていくことも必要です。残念ながら、96 年前と同じような出来事が繰り返されてしまうのではないかと危惧する社会情勢になってきているように私個人では感じております。時間がかかる作業とはなりますが、同じことを繰り返さないためにも、過去に存在した事件の史実をしっかり明らかにし、その成果を発表していけるよう努力したいと思っています。

○参考文献

仁木ふみ子『震災下の中国人虐殺―中国人労働者と王希天はなぜ殺されたか』（青木書店、1993 年）
川島真『中国近代外交の形成』（名古屋大学出版会、2004 年）
今井清一監修・仁木ふみ子編『史料集　関東大震災下の中国人虐殺事件』（明石書店、2008 年）
伊藤泉美『横浜華僑社会の形成と発展　幕末開港期から関東大震災復興期まで』（山川出版社、2018 年）

小笠原強・宮川英一「関東大震災時の中国人虐殺資料を読む―中央研究院近代史研究所所蔵『日本震災惨殺華僑案』第四冊―」（『専修史学』第 58 号、2015 年）
同「関東大震災時の中国人虐殺資料を読む（二）―中央研究院近代史研究所所蔵『日本震災惨殺華僑案』第四冊―」（『専修史学』第 61 号、2016 年）
同「関東大震災時の中国人虐殺資料を読む（三）―中央研究院近代史研究所所蔵『日本震災惨殺華僑案』第四冊―」（『専修史学』第 63 号、2017 年）
同「関東大震災時の中国人虐殺資料を読む（四）―中央研究院近代史研究所所蔵『日本震災惨殺華僑案』第四冊―」（『専修史学』第 65 号、2018 年）
小笠原強「関東大震災下の中国人虐殺と『日本震災惨殺華僑案』」（『専修史学』第 64 号、2018 年）

【資料1】『日本震災惨殺華僑案』所収の名簿一覧

No.	文書到着日時	作成者	名簿内容
1	1923.10.26	駐日中華民国横浜総領事館	神奈川県の被害者名簿（3名）
2	1923.11.8	温州旅滬同郷会	浙江省温州出身者の被害者名簿（犠牲者289名・受傷者36名・不明者44名）
3	1923.12.6	駐日中華民国横浜総領事館	神奈川県の被害者名簿（犠牲者3名・帰国者8名・日本に留まった4名）
4	1923.12.6	吉林省交渉員	吉林省の留日学生消息一覧（12名）
5	1923.12.6	温州旅滬同郷会	浙江省温州出身者の被害者名簿（64名）
6	1923.12.31	浙江省交渉員	浙江省温州出身者の被害者名簿（1923.12.6の温州旅滬同郷会作成の名簿と同）
7	1924.1.19	在温州交渉員	浙江省温州出身者の被害者（永嘉県211名・瑞安県150名・青田県127名※青田県は受傷者38名を含）・家族名簿
8	1924.1.31	王正廷訪日調査団	調査報告書・附件5号にて浙江省出身被害者一覧（25名）
9	1924.1.31	王正廷訪日調査団	調査報告書・附件7号にて浙江省出身被害者一覧（89名）
10	1924.1.31	王正廷訪日調査団	調査報告書・附件17号にて中国人被害者名簿（犠牲者437名・不明者46名・受傷者77名・財産損失45名）
11	1924.3.21	温州旅滬同郷会	浙江省温州出身被害者の家族名簿
12	1924.5.9	温州旅滬同郷会	浙江省温州出身被害者の家族名簿（612名）
13	1924.5.9	温州旅滬同郷会	浙江省温州出身者の被害者名簿（369名）
14	1924.5.17	在寧波交渉員	浙江省寧波・紹興・台州出身者の被災情況（13名）
15	不明	〔外交部通商司第五科〔銭王倬編列〕〕	外交部作成と思われる被害者の財産損失表（45名）
16	不明	〔外交部通商司第五科〔銭王倬編列〕〕	外交部作成と思われる被害者の敷金回収に関する表（6名）
17	不明	〔外交部通商司第五科〔銭王倬編列〕〕	外交部作成と思われる被害者の財産損失表（59名）
18	不明	〔外交部通商司第五科〔銭王倬編列〕〕	外交部作成と思われる温州出身者の財産損失表(225名）
19	不明	〔外交部通商司第五科〔銭王倬編列〕〕	外交部作成と思われる温州旅滬同郷会による調査表。詳細不明。
20	不明	〔外交部通商司第五科〔銭王倬編列〕〕	外交部作成と思われる山東省特派員からの被害状況表。詳細不明。
21	不明	〔外交部通商司第五科〔銭王倬編列〕〕	外交部作成と思われる駐日公使館からの被害状況表。詳細不明。
22	不明	〔外交部通商司第五科〔銭王倬編列〕〕	外交部作成と思われる中国人被害者名簿（609名）

【資料2】『日本震災惨殺華僑案』第4冊　附件17号「中華民国留日人民被害調査表」の一部

No	姓名	年齢	本籍・省	本籍・県	本籍・地区	職業	災前住所	被害時間	被害地方	加害者	被害状況	備考
001	潘林銓	30	浙江省	永嘉県	二十三都石橋	工	大島町八六六七合宿所	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	潘乾隆証言、金寶山報告
002	潘訓喜	20	浙江省	永嘉県	二十三都石橋	工	大島町八六六七合宿所	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	金寶山報告
003	潘訓果	30	浙江省	永嘉県	二十三都石橋	工	大島町八六六七合宿所	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	金寶山報告
004	潘阿五	31	浙江省	永嘉県	二十三都石橋	工	大島町八六六七合宿所	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	金寶山報告
005	潘岩期	23	浙江省	永嘉県	二十三都石橋	工	大島町八六六七合宿所	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	金寶山報告
006	張鶴銘	28	浙江省	永嘉県	二十三都石橋	工	大島町八六六七合宿所	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	金寶山報告
007	林慶聚	27	浙江省	永嘉県	二十三都石橋	工	大島町八六六七合宿所	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	金寶山報告
008	林順藩	〔記載なし〕	浙江省	永嘉県	二十三都	工	大島町八丁目	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	災民代表報告
009	林寶升	〔記載なし〕	浙江省	永嘉県	二十三都	工	大島町八丁目	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	災民代表報告
010	林瑞弟	〔記載なし〕	浙江省	永嘉県	二十三都	工	大島町八丁目	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	災民代表報告
011	徐喜富	〔記載なし〕	浙江省	永嘉県	二十三都	工	大島町八丁目	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	災民代表報告
012	林寶吉	〔記載なし〕	浙江省	永嘉県	二十三都	工	大島町八丁目	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	災民代表報告
013	林景麟	〔記載なし〕	浙江省	永嘉県	二十三都	工	大島町八丁目	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	災民代表報告
014	林永全	〔記載なし〕	浙江省	永嘉県	二十三都	工	大島町八丁目	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	災民代表報告
015	林寶定	〔記載なし〕	浙江省	永嘉県	二十三都	工	大島町八丁目	九月三日午前十一時前後	原住所付近	自警団・軍警	殺死	災民代表報告
016	陳耀銘	35	浙江省	青田県	〔記載なし〕	工	神奈川県足柄下郡土肥村	九月四日	吉浜城堀	青年団	殺死	横浜総領事館報告

017	陳寶田	32	浙江省	青田県	〔記載なし〕	工	神奈川県足柄下郡土肥村	九月四日	吉浜城堀	青年団	殺死	横浜総領事館報告
018	阮香靈	29	浙江省	青田県	〔記載なし〕	工	神奈川県足柄下郡土肥村	九月四日	吉浜城堀	青年団	殺死	横浜総領事館報告
019	伍鳴魁	38	浙江省	青田県	〔記載なし〕	商	大島町一一八七	九月三日	原住所附近	日本労働者	殺死	竹内（ママ）四郎目撃、彭寶興報告
020	金振飛	29	浙江省	青田県	〔記載なし〕	工	神奈川高島町	九月二日	原住所附近	警察・日本労働者	殺死	神戸領事館報告
021	徐子庭	31	浙江省	青田県	〔記載なし〕	商	神奈川高島町	九月二日	原住所附近	警察・日本労働者	殺死	神戸領事館報告
022	王岩典	34	浙江省	青田県	〔記載なし〕	商	神奈川子安町	九月二日	原住所附近	警察・日本労働者	殺死	項月將証言、神戸領事館報告
023	林徳楷	28	浙江省	青田県	島前	商	大島町二丁目	〔記載なし〕	原住所附近	警察・日本労働者	撲殺	神戸領事館報告
024	王國璋	29	浙江省	青田県	〔記載なし〕	工	高島町九ノ一九月見橋	九月二日	原住所附近	警察・日本労働者	撲殺	神戸領事館報告
025	徐庭勲	27	浙江省	青田県	〔記載なし〕	商	神奈川子安町	〔記載なし〕	原住所附近	日人	殺死	神戸領事館報告
026	周政熊	21	浙江省	青田県	〔記載なし〕	商	神奈川子安町	〔記載なし〕	原住所附近	日人	殺死	神戸領事館報告
027	黄文登	40	広東省	香山	〔記載なし〕	医者	神奈川横浜、子安	九月二日	山下橋海岸	〔記載なし〕	日本人に海に投げられ死亡	黄彩璧目撃
028	阿十	〔記載なし〕	広東省	〔記載なし〕	〔記載なし〕	店員	神奈川横浜、子安	九月三日	横浜小港海上艇内	〔記載なし〕	殴打され死亡	〔記載なし〕
029	唐寔	〔記載なし〕	広東省	香山	〔記載なし〕	飲食業	神奈川横浜、子安	九月二日	横浜市箕輪	自警団	撲殺	黄迥凡報告（彼が目撃）
030	某君	〔記載なし〕	〔記載なし〕	〔記載なし〕	〔記載なし〕	〔記載なし〕	〔記載なし〕	九月二日	横浜市箕輪	自警団	撲殺	同〔黄迥凡報告〕（この人は唐寔と一緒に殺害されたのを目撃。姓名不明）